

令和 4 年 6 月 15 日現在

機関番号：13901

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(A））

研究期間：2019～2021

課題番号：18KK0341

研究課題名（和文）性的マイノリティから見る権威主義的ポピュリズム 東南アジアとフィリピン

研究課題名（英文）Looking into Authoritarian Populism from the Perspectives of Sexual Minorities: Southeast Asia and Philippines

研究代表者

日下 渉（KUSAKA, WATARU）

名古屋大学・国際開発研究科・准教授

研究者番号：80536590

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,000,000円

渡航期間： 11ヶ月

研究成果の概要（和文）：コロナ禍による渡航先でのロックダウンによって、国際共同研究に大きな支障が生じ、計画していた英語論集の出版を実現できなかった。ただし、基科研での共同研究をもとに『東南アジアと「LGBT」の政治 性的少数者をめぐって何が争われているか』（明石書店）を出版した。そして、東アジアやラテンアメリカにおける性的少数者の政治を研究している国内研究者と連携を深めたり、編著の一部を英訳して海外の研究者から意見を寄せてもらい、本書を発展させた英語版を出版する機会を伺っている。ポピュリズムに関しては、ドゥテルテ大統領の家父長的統治に関する英語論文を2本、日本語論文を2本出版し、日本語の単著も出版の直前である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『東南アジアと「LGBT」の政治』は、5,940円と高額であるにもかかわらず、1年を待たずして2刷に入った。多くの当事者、研究者、実務家が関心をもってくれたおかげだと考えている。海外では、Jafar Suryomenggolon氏によって、International Quarterly for Asian Studies 52(3-4)に英語での書評が掲載された。それによって、英語での出版を求める声が海外からさらに届くようになった。日本語では、東南アジア学会の学会誌『東南アジア 歴史と文化』で書評が出る予定である。また、当事者のフリーマガジン『南界堂』（5月27日）でも紹介されている。

研究成果の概要（英文）：Because the strict border control and lockdown in the Philippines during the pandemic posed significant obstacles to organizing international joint research, I could not publish an English-edited book as an outcome of the project. Yet, I was able to publish a Japanese anthology titled Southeast Asia and "LGBT" Politics: What is Contested over Sexual Minority? (Akashi Shoten, 2022) as the main editor, and have been seeking an opportunity to publish an English version with updated contents. For this purpose, I have developed a collaboration with Japanese researchers working on politics over sexual minorities in East Asia and Latin America. Also, I translated the introductory chapter of the book into English and shared it with international joint researchers to receive feedback from them. As for populism in the Philippines, I published two English papers and two Japanese papers. Also, I have almost completed a Japanese book focusing on president Rodrigo Duterte and his masculinity.

研究分野：地域研究

キーワード：性的少数者 ポピュリズム 東南アジア フィリピン LGBT

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

申請者は基課題「東南アジアにおける LGBT の政治」で、なぜ諸国家は、性的マイノリティに対して「抑圧」「黙認」「支援」といった多様な対応をとるのかという問いを立て、各国民国家の「性的な」特徴を明らかにしようとしてきた。そのうえで、各国家の指導者が自らの正統性を打ち立てようとする際、性的マイノリティを政治的資源として異なる方法で利用しているからだという知見を得た。国際共同研究の目的は、基課題を二つの方向性で発展させることである。まず、個人研究の発展として、フィリピンのドゥテルテ大統領を事例に、権威主義的なポピュリストが支持される理由を、セクシュアリティ・ジェンダー・宗教における法の支配を超えた正統性という視座から解明する。次に、共同研究の発展として、基課題と国際共同研究の成果を英語で発信していくための国際連携を強化する。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ドゥテルテ大統領を事例に、権威主義的ポピュリストの超法規的な正統性を、セクシュアリティ・ジェンダー・宗教の視点から解明することである。ドゥテルテは政敵を「おかま」と罵る一方、同姓婚にも理解を示す。基課題の調査中、「LGBT」による公共圏の政治と「バクラ」による親密圏の政治との齟齬は、ドゥテルテへの態度にも反映されていると気づいた。LGBT 活動家の多くが、人権や法の支配の観点から、ドゥテルテの男性優位的な言動と強権政治を批判する。他方「バクラ」の多くは、ドゥテルテをメシア的な救済者と受け取り、豪腕でもって苦しみのない社会をもたらしてくれると期待する。前者は合法的な正統性に基づく自由民主主義と公共圏の政治を信じるのに対して、後者は法を超えた温情と暴力で統治する家父長的な指導者に解放の契機を見出す。本研究では、ドゥテルテの支持基盤ビサヤーミンダナオ地域で調査を行ない、彼と支持者が依拠する超法規的な正統性の根源を、愛・性・ケア・救済をめぐる親密圏の政治から明らかにしたい。

3. 研究の方法

基課題では、4回の国際研究集会を行なうなかで、海外研究者との連携が進んだ。なかでも、タイ研究とクイア・スタディーズの第一人者 Peter A. Jackson 氏（オーストラリア国立大学）が、本研究に参加の意向を示したことの意義は大きい。同士との意見交換のなかで、基課題の成果を英語で出版する計画が持ち上がった。その準備として、申請者はフィリピンで集中的にフィールド調査を行って事例研究をさらに発展させ、分担者も既に入手したデータの分析を進めていく。また、国際ワークショップを開催し、基課題の共同研究者と、Jackson 氏ら海外研究者が集中的に意見交換する場を設けることによって、それぞれの研究内容をさらに発展させ、国際的に影響力のある成果発表に繋げていく。

4. 研究成果

コロナ禍に伴う海外渡航の制限やロックダウンによって、国際共同研究に大きな支障が生じ、計画していた英語論集の出版を実現できなかった。ただし、基科研での共同研究をもとに『東南アジアと「LGBT」の政治——性的少数者をめぐって何が争われているか』

(明石書店、2022年)を出版した。そして、東アジアやラテンアメリカにおける性的少数者の政治を研究している国内研究者と連携を深めたり、編著の一部を英訳して海外の研究者から意見を寄せてもらい、本書を発展させた英語版を出版する機会を伺っている。ポピュリズムに関しては、ドゥテルテ大統領の家父長的統治に関する英語論文を2本、日本語論文を2本出版し、日本語の単著も出版の直前である。コロナ禍により、当初計画していた海外での現地調査と国際共同研究は十分に実行できなかったものの、厳格な外出禁止を伴うロックダウンを逆手にとり、特殊な状況における参与観察を深めると同時に、執筆活動に専念し、多くの研究成果をあげることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Kusaka Wataru	4. 巻 68
2. 論文標題 Duterte's Disciplinary Quarantine How a Moral Dichotomy was Constructed and Undermined	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Philippine Studies: Historical and Ethnographic Viewpoints	6. 最初と最後の頁 423 ~ 442
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1353/phs.2020.0027	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日下 渉	4. 巻 66
2. 論文標題 ドゥテルテの暴力を支える「善き市民」 フィリピン西レイテにおける災害・新自由主義・麻薬戦争	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 56 ~ 75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11479/asianstudies.66.2_56	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日下 渉	4. 巻 22
2. 論文標題 フィリピン2019年中間選挙 ドゥテルテによる「例外常態」の常態化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ワセダ・アジア・レビュー	6. 最初と最後の頁 15-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Wataru Kusaka
2. 発表標題 War on Drugs and State of Exception in the Philippines: When a Bandit Grabbed the State
3. 学会等名 The 11th International Convention of Asia Scholars (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Wataru Kusaka
2. 発表標題 Embracing Discipline: Neoliberal Moral Subjectivities and Duterteism
3. 学会等名 Philippine Sociological Society (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Wataru Kusaka
2. 発表標題 Spatial, Legal and Moral Division of the Urban Poor: Neoliberal Governmentality and Disciplinary Intervention in Metro Manila
3. 学会等名 International Research Forum on the Philippines (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Wataru Kusaka
2. 発表標題 Public Rights and Intimate Sorrow: Livelihoods and Dignity of Sexual Minorities in the Philippines
3. 学会等名 Consortium for Southeast Asian Studies in Asia (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Wataru Kusaka	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 pp.71-97
3. 書名 "Disaster, Discipline, Drugs and Duterte: Emergence of New Moral Subjectivities in Post-Yolanda Leyte," in <i>Ethnographies of Development and Globalization in the Philippines: Emergent Socialities and the Governing of Precarity</i> . edited by Koki Seki.	

1. 著者名 日下渉、伊賀司、青山薫、田村慶子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 380
3. 書名 東南アジアと「LGBT」の政治：性的少数者をめぐって何が争われているか	

1. 著者名 日下渉	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 57-78頁
3. 書名 「ソーシャルメディアのつくる「例外状態」 ドゥテルテ政権下のフィリピン」、『ソーシャルメディア時代の東南アジア政治』見市建・茅根由佳（編）	

1. 著者名 吉澤あすな・日下渉	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 88-111頁
3. 書名 「紛争社会でつくる日常の平和 南部フィリピンにおけるムスリムとクリスチャンの共棲」（吉澤あすなとの共著）、『日常生活と政治 国家中心的政治像の再検討』田村哲樹（編）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	ブリラン カルロス・ミロス (Bulilan Carlos Milos)	ホーリーネーム大学・St. Gabriel SVD Community・Vice President for Academic Affairs	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
フィリピン	Holy Name University			